一駒打込て取ぬと勘べし
一王にげ置に能手ある事
一手前に歩うつ事大事なり
一進ては其駒にて前をかこひ、前を圍ては仕懸る事、駒組の大意、上手の態也、
一總じて五筋、或は端に手ある事多し、
一總じて勝事を專とすべからず、手前を全守り、負ざる事を肝要とする時は、自ら勝にむかふべし、
一駒組の定法は、雙方宜手を撰ての事なり、敵定法をはなれ仕懸る事あり、おどろくべからず、必末にさしつかへある也、

〔象戯百箇條之傳〕象戯之心得

一象棋ハ初二三十手之內指組大事タルベシ、初之內ニ非手有之時ハ終迄弱ニナリ、指直ス事成マジキ也、二三十手之先ニ非有之バ、弱ニ乘テ其處不拔ヤウニ指時ニハ勝ニナルベシ、又手前ニ非手有之時ハ、先ヨリ如其指掛ル故、負ニナルト心得、一手々々ニ見合、始終ヲ見屆指ベキコト專一ト心得ベシ、詮儀ヲツメテ見ル時ハ、雙方不負ハズナレドモ、微塵之非手有之方負ナルベシ、尤振アシキ象戯指直スコトモ有ベシ、夫ハ先之下手故也、互ニ上手時ハ、其先拔指直スコト成ガタシ、下手ニハ如何ニテモ勝ベシ、〇中略

一象戯モ負惜ミ名ヲ大事ニタシナミ專一タルベシ、嗜ガラニテ象戯モツヨク相見ヘ、嗜無之者ハ不指前ヨリ下手ト見ユル、能々心得ベシ、森田宗立ハ象戯大切ニ存、數番指不申段尤至極也、脇ヨリハ一入藝ノ上手ト感入セリ、宗立程之象棋ニ而、尙々以深切之心持肝要タルベシ、

一先年駿州ニ而松平五郎右衞門殿、日比半平指シ象戯ニツミ不申處ヲ、半平不思儀ニ詰、皆々感